

RESASを活用した政策立案ワークショップ
(第2回)

少子化と若者の働き方

日時：令和6年10月1日（火）13:00-15:00

会場：佐世保市役所

鎌田 健司（明治大学）

自己紹介

- 1979年生まれ（神奈川県横須賀市→藤沢市在住）
- 2023年4月～ **明治大学政治経済学部**
 - 2009年～2023年3月 **国立社会保障・人口問題研究所**
 - 人口動向研究部（出生動向基本調査・全国将来推計人口）
 - 国際関係部（人口移動調査）
 - 人口構造研究部（地域別将来推計人口・世帯推計・世帯動態調査）
 - 2016年6月～ 2018年4月 **内閣官房まち・ひと・しごと創生本部**



専門分野

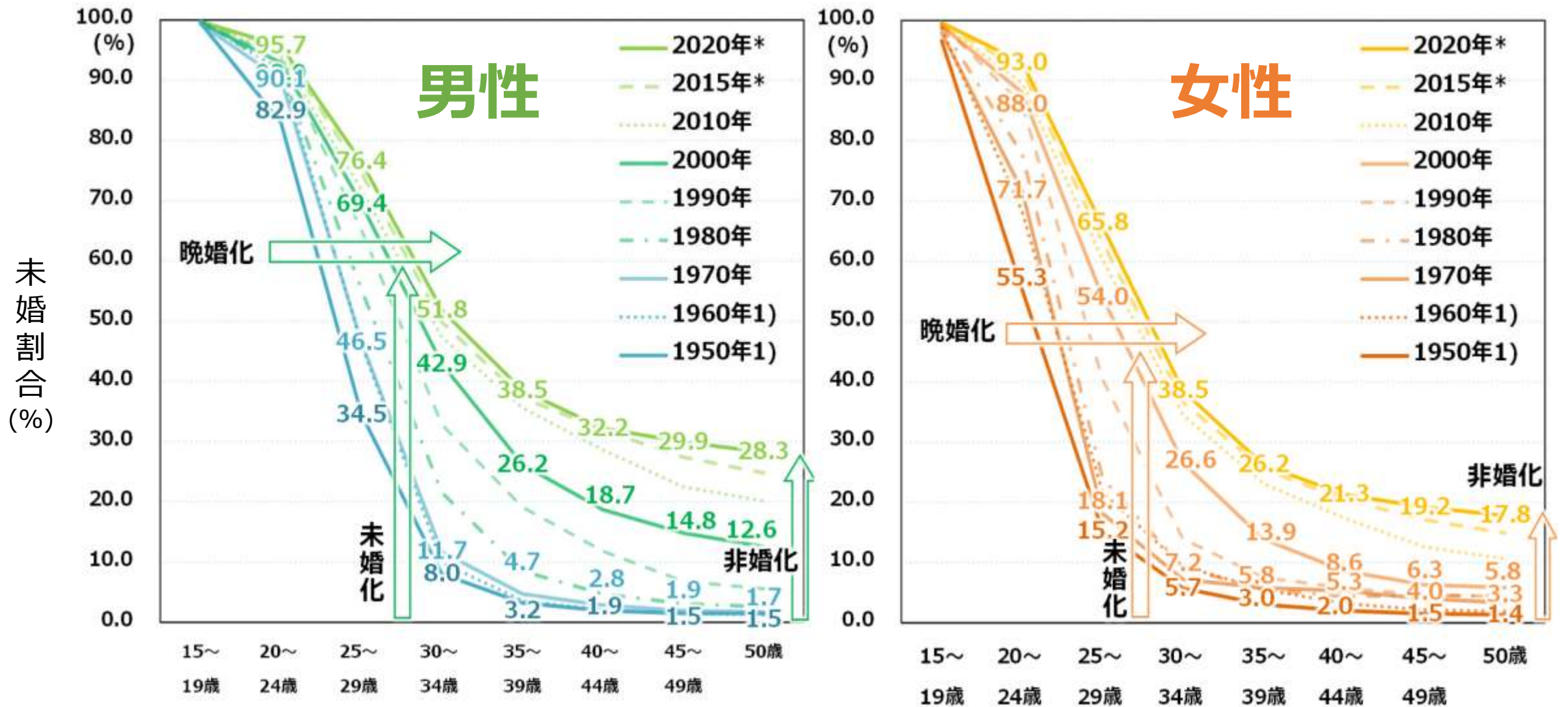
地域人口分析・地域出生力分析

- 鎌田健司, 岩澤美帆(2009)「出生力の地域格差の要因分析:非定常性を考慮した地理的加重回帰法による検証」,『人口学研究』 45, pp.1-20.
- 鎌田健司(2013)「地域の就業・子育て環境と出生タイミングに関する研究 —マルチレベルモデルによる検証—」,『人口問題研究』 69(2), pp.42-66.
- 鎌田健司, 小池司朗, 山内昌和(2019)「移動経歴と初婚発生に関するライフコース分析—系列分析(最適マッチング分析・回帰木分析)による類型化—」,『人口問題研究』 75(3), pp.192-215.
- 鎌田健司, 小池司朗, 菅桂太, 山内昌和(2020)「市区町村別にみた将来の人口増加率の要因分解」,『人口問題研究』 76(4), pp.488-509.
- 鎌田健司, 小池司朗, 菅桂太, 山内昌和(2022)「都道府県別にみた人口増加率の要因分解: 1950～2015年 (1) 総人口の分析結果」,『人口問題研究』 78(1), pp.156-176. etc.

<https://researchmap.jp/kenji.kamata>



少子化の主要因としての未婚化・晩婚化



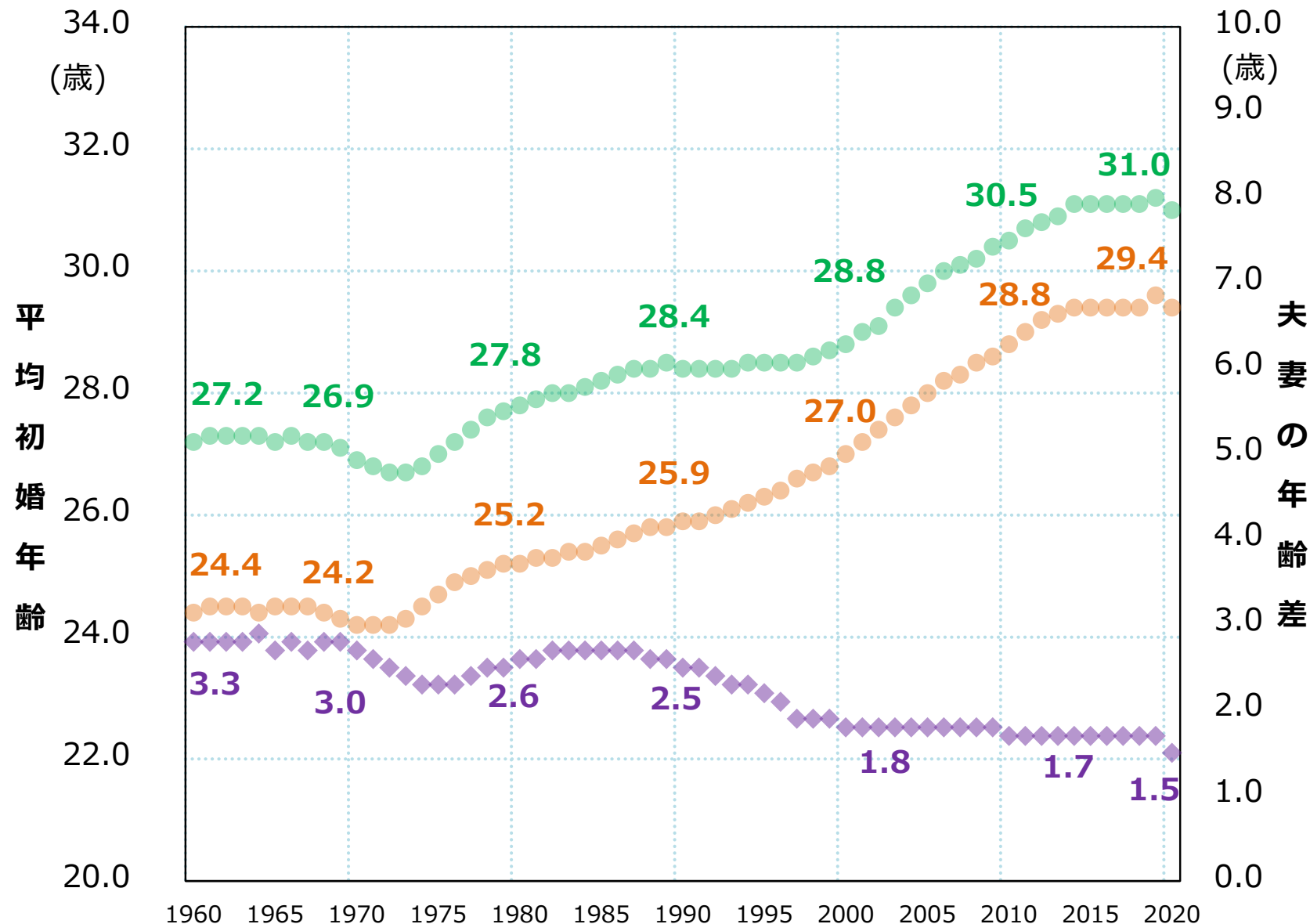
総務省統計局『国勢調査報告』,年齢別人口(配偶関係不詳を除く)に占める割合。*配偶関係不詳補完結果に基づく。

1)沖縄県を含まない。50歳時の未婚割合：45~49歳と50~54歳における割合の平均値。*配偶関係不詳補完結果に基づく。

晩婚化：平均初婚年齢・夫妻の年齢差

晩婚化

- 平均初婚年齢の上昇
- 夫：26.9歳→31.0歳
妻：24.2歳→29.4歳
(1970) (2020)
- 夫妻の年齢差は縮小
 - 出会いの変化（見合い婚などアレンジ婚の減少など）



(資料) 社人研『人口統計資料集』, 厚生労働省政策統括官(統計・情報政策、政策評価担当)『人口動態統計』による。1947～72年は沖縄県を含まない。1940年以前は届出時の年齢, 1947～67年は結婚式を挙げたときの年齢, 1968年以降は結婚式を挙げたとき, または同居を始めたときの早い方の年齢。同居(挙式)年と届出年が同じものについてのみ。報告漏れを含む改訂値。

未婚状態の類型化 (岩澤・余田 2024)

- 未婚者を3要因から類型化
 - 経済的基盤 (正規雇用／自営・家族従業等か否か)
 - 親密性基盤 (恋人／婚約者の有無)
 - 結婚意欲 (生涯の結婚の意思)
- 四類型
 - ①**前駆型** (経済的基盤○親密性基盤○結婚意思○)
 - ②**解放型** (経済的基盤○親密性基盤○結婚意思×)
 - ③**剥奪型** (経済的／親密性基盤×結婚意思○) →3類型
 - ④**離脱型** (経済的／親密性基盤×結婚意思×) →3類型
- **1980年代** : 「**前駆型**」の増加(**結婚の先送り**)
- **1990年～2000年代** : 経済的基盤の欠如による「**剥奪型**」の増加
- **2010年代** : 経済的基盤の欠如はやや緩和・親密性基盤の欠如による「**剥奪型**」の増加
 - さらに「**離脱型**」が急増→2020年前後の未婚化に影響
- 1980年から2020年までで最も構成割合が高い未婚者は、経済基盤はあるが親密性基盤に欠ける「**剥奪型**」(2020年時点で4割強)の未婚者 (出会いがない)



若者の働き方・所得と結婚・出生

近年の主要な仮説

学歴構成変化による結婚市場仮説

Raymo, J. M. and M. Iwasawa. 2005. "Marriage Market Mismatches in Japan: An Alternative View of the Relationship between Women's Education and Marriage." American Sociological Review 70: 801-22.

女性の高学歴化によって、女性からみた上昇婚（ハイパガミー）の結婚可能性が減じることによって、構造的に結婚がしにくくなる

グローバル化経済・労働市場仮説

Buchholz, S., Hofacker, D., Mills, M., Blossfeld, H.-P., Kurz, K., & Hofmeister, H. (2009). Life courses in the globalization process: The development of social inequalities in modern societies. European Sociological Review, 25, 53-71.

グローバル経済化による不安定労働者の増加は、結婚できない若者を増やし、英語圏および東アジア地域で顕著な傾向（低学歴・非正規男性の初婚率低下）

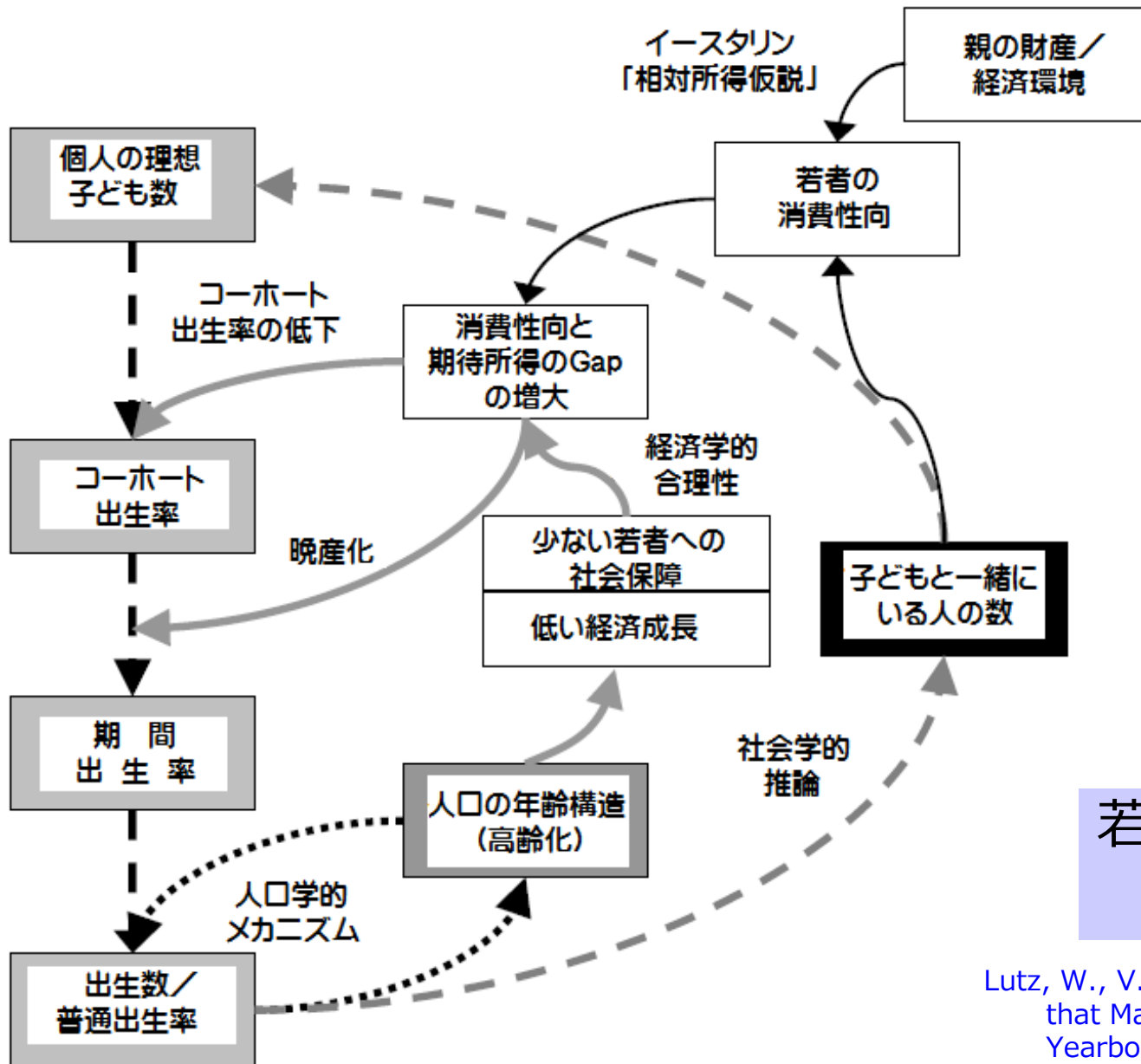
ジェンダー革命仮説

Esping-Andersen, G., & Billari, F. C. (2015). Re-theorizing family demographics. Population and Development Review, 41, 1-31.

教育の男女差の逆転により女性の機会の平等が達成されてきている国において、高学歴女性の方が初婚率が高くなる→北欧諸国

「低出生の罠」仮説

前提：出生率の低下
近代化に伴う人口転換の過程



・低出生率の持続

- ・ 母親人口の減少
- ・ 高齢化の進展

➡ 人口学的メカニズム
による出生数の減少

・若者の期待所得の減少

➡ 結婚・出産に対する
コストの増大

➡ 低出生率の持続

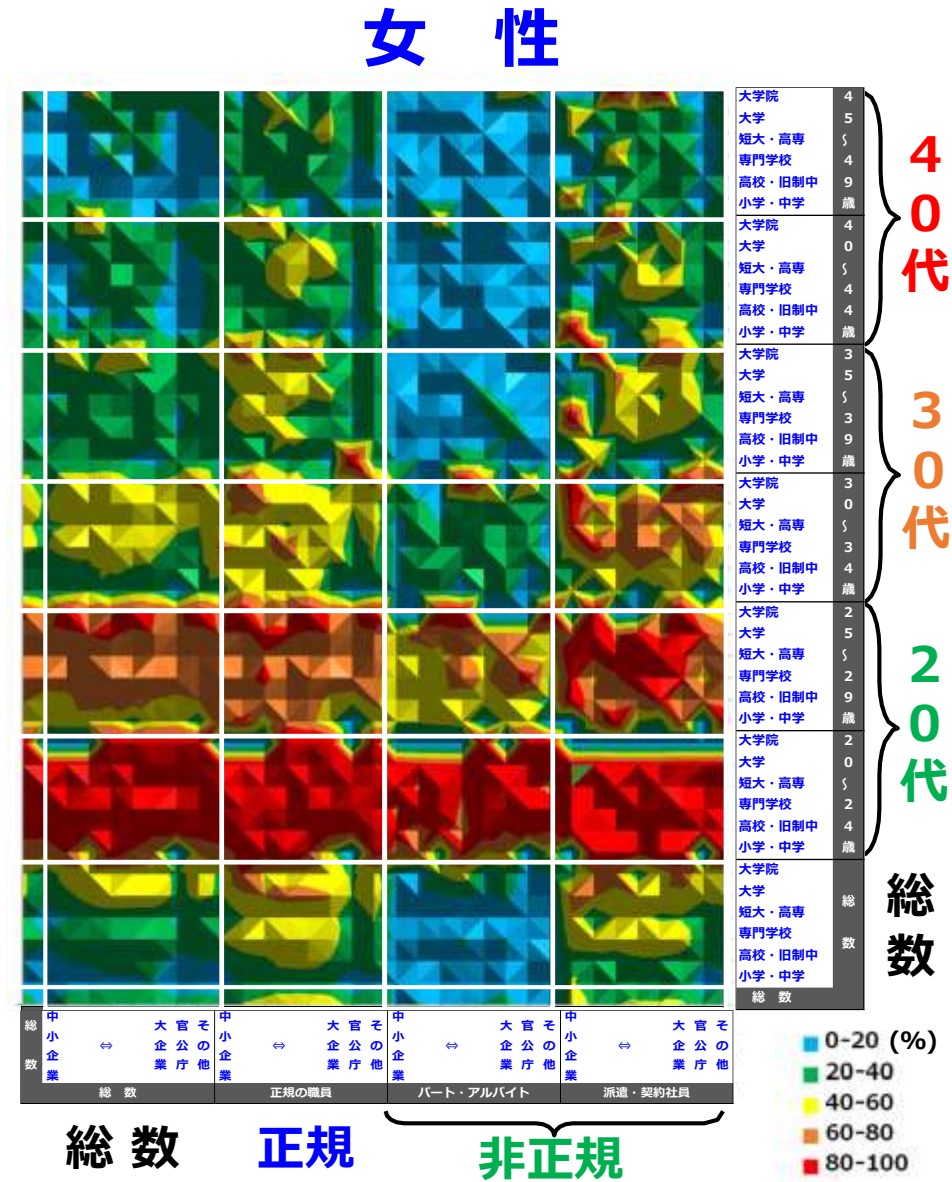
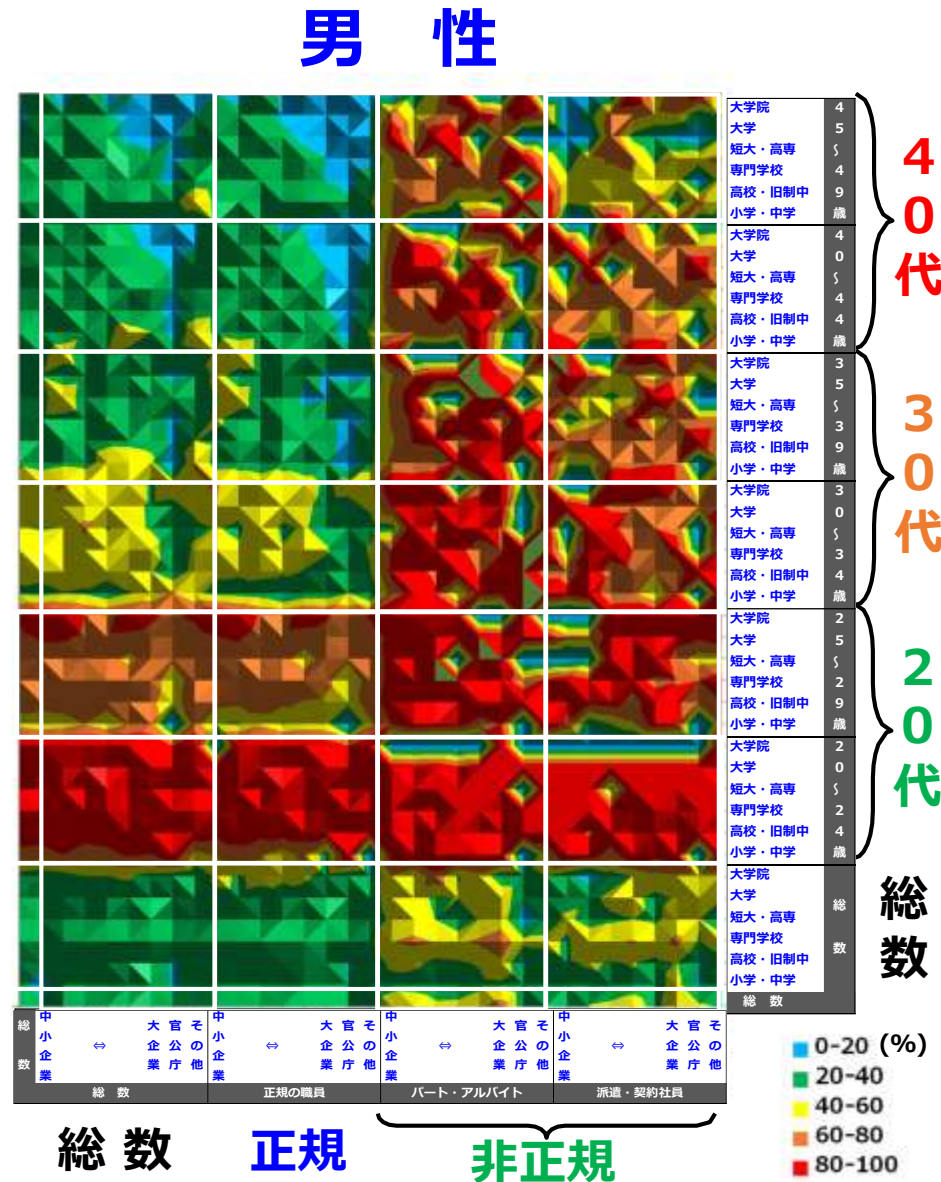
若者の雇用環境や結婚・出産に対する
意識に係わる問題

Lutz, W., V. Skibekk, and M. Testa (2006) "The Low Fertility Trap Hypothesis: Forces that May Lead to Further Postponement and fewer Births in Europe", Vienna Yearbook of Population Research 2006, pp. 167-192.

未婚率の高い属性

年齢×学歴×
従業上の地位
×従業員規模

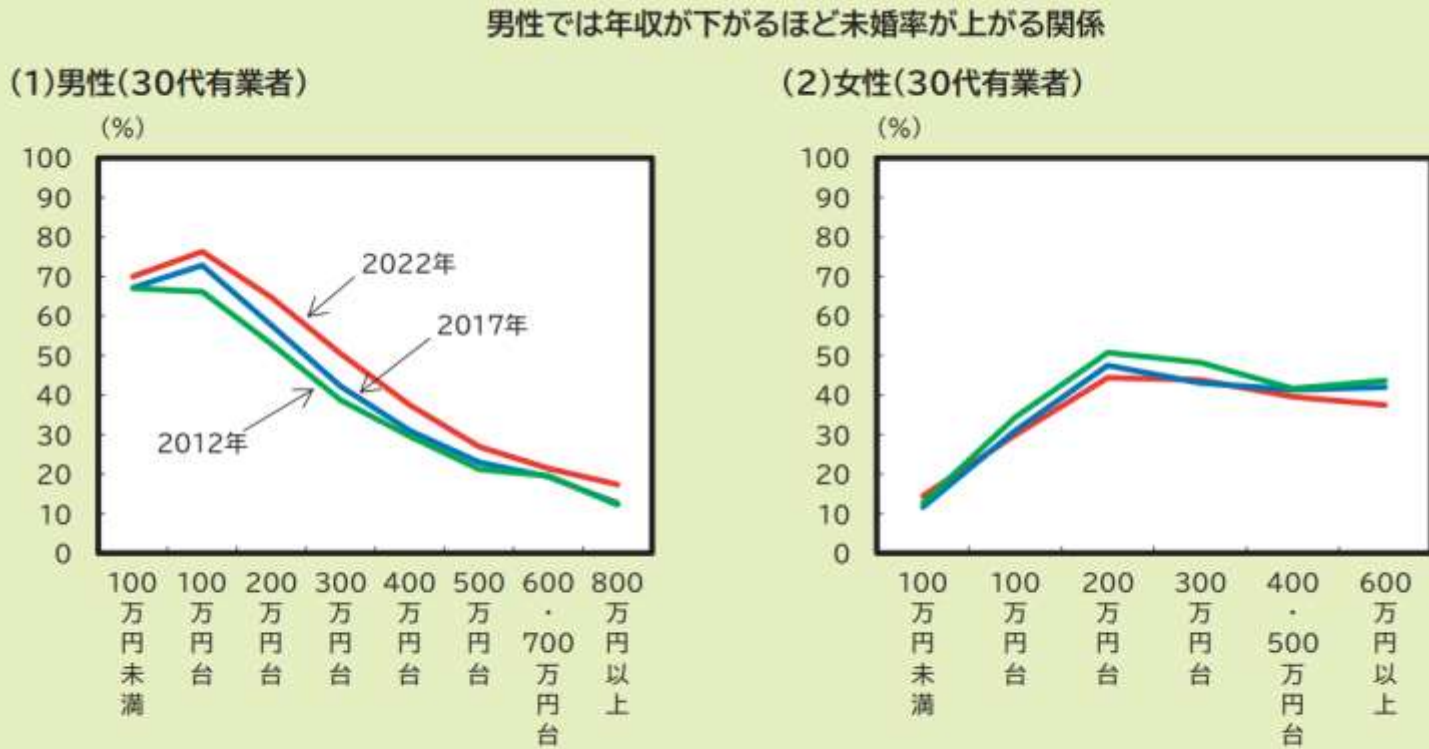
- 男性は非正規
 - 雇用の安定
- 女性は高学歴フルタイム
 - パートタイムは子育て中の女性が含まれる
- 30代以降で、男女で属性ミスマッチが生じる



資料：総務省「平成29年就業構造基本調査」第16表より作成。

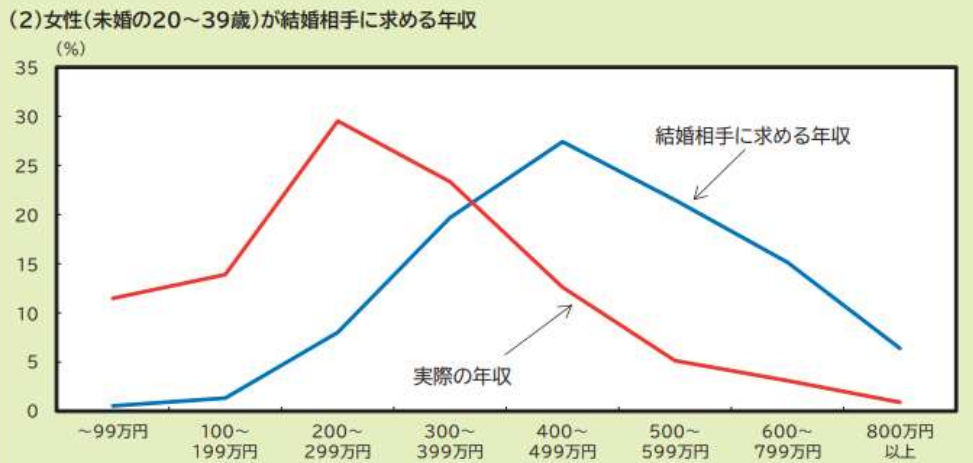
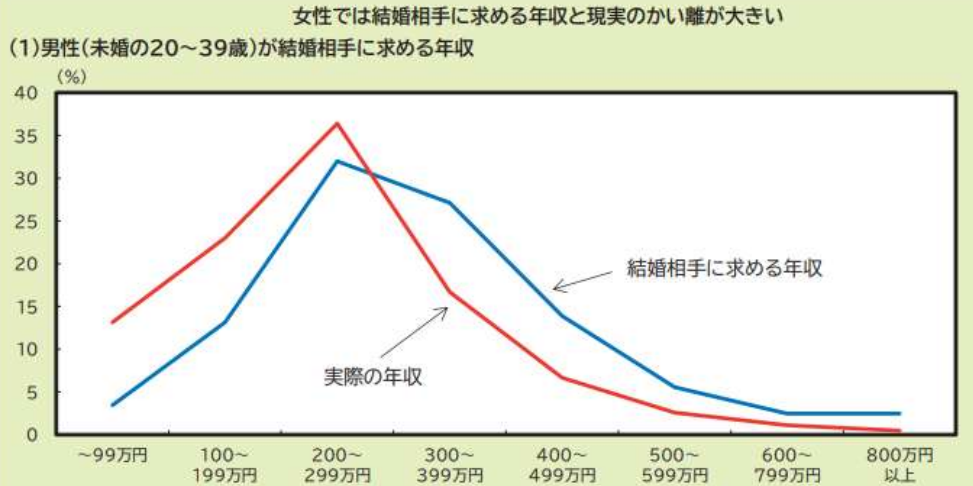
年収と未婚率・結婚相手に希望する年収

第2-2-6図 男女別にみた年収区分別の未婚率



(備考) 1. 総務省「就業構造基本調査」により作成。
2. 有業者には非正規雇用者を含む。
3. ここでは、就業構造基本調査における「所得」を年収と表記している。

第2-2-8図 結婚相手に求める年収と実際の年収



(備考) 1. 内閣府「少子化社会対策に関する意識調査」(平成31年3月)、総務省「平成29年就業構造基本調査」により作成。
2. 結婚相手に求める年収は、「収入は関係ない」、「わからない」と回答した者を除いて算出。
3. 実際の年収は、20~39歳の有業者かつ未婚者の値。
4. ここでは、就業構造基本調査における「所得」を年収と表記している。

就業状態別、結婚意欲：1987-2021年

一年以内に結婚する意思

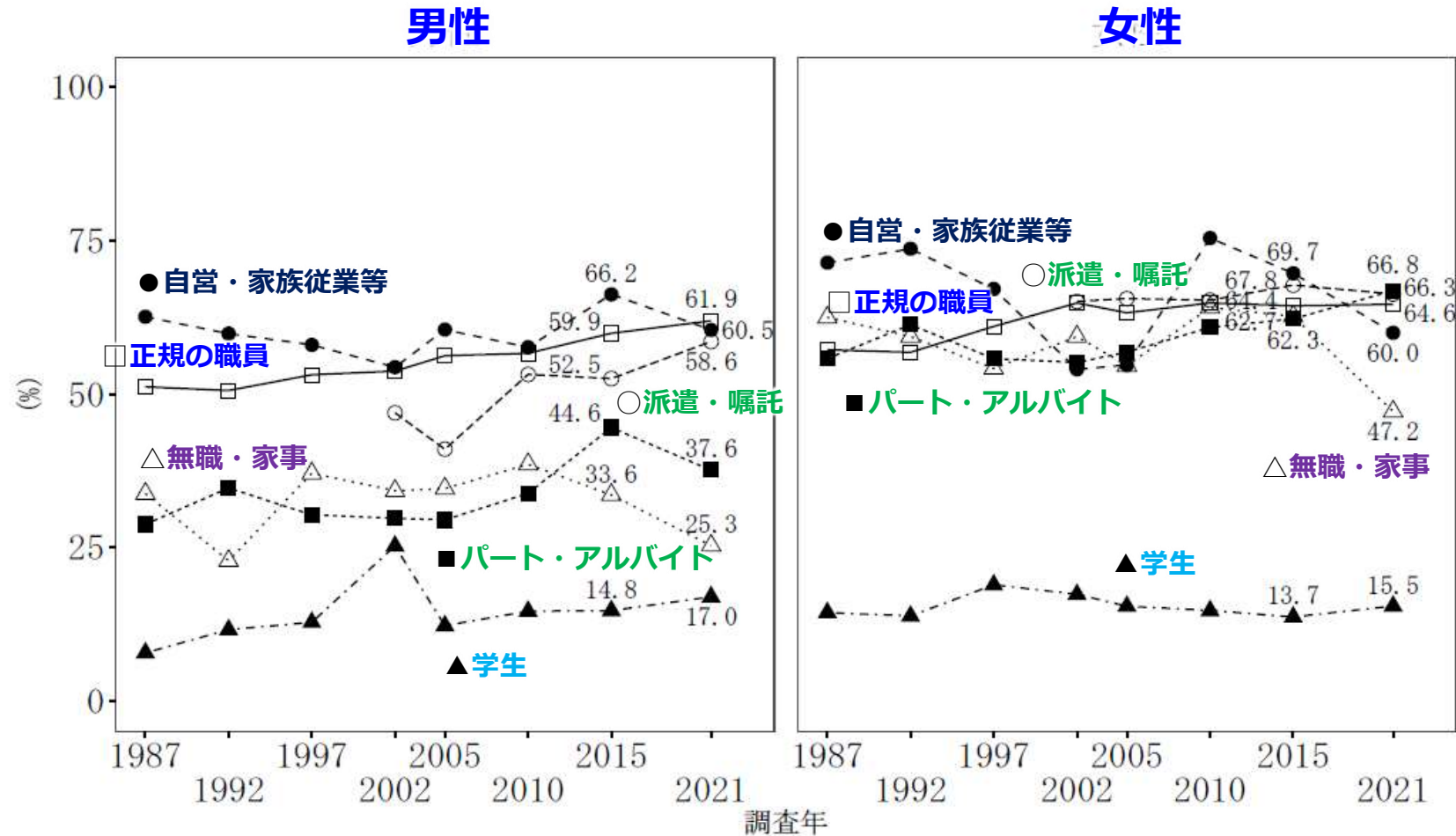
男性

- 就業状況による差が大きい
- 雇用が安定しているほど高い

女性

- 学生とそれ以外で差

図表 1-4 調査・現在の就業状況・従業上の地位別にみた、一年以内に結婚する意思のある未婚者割合



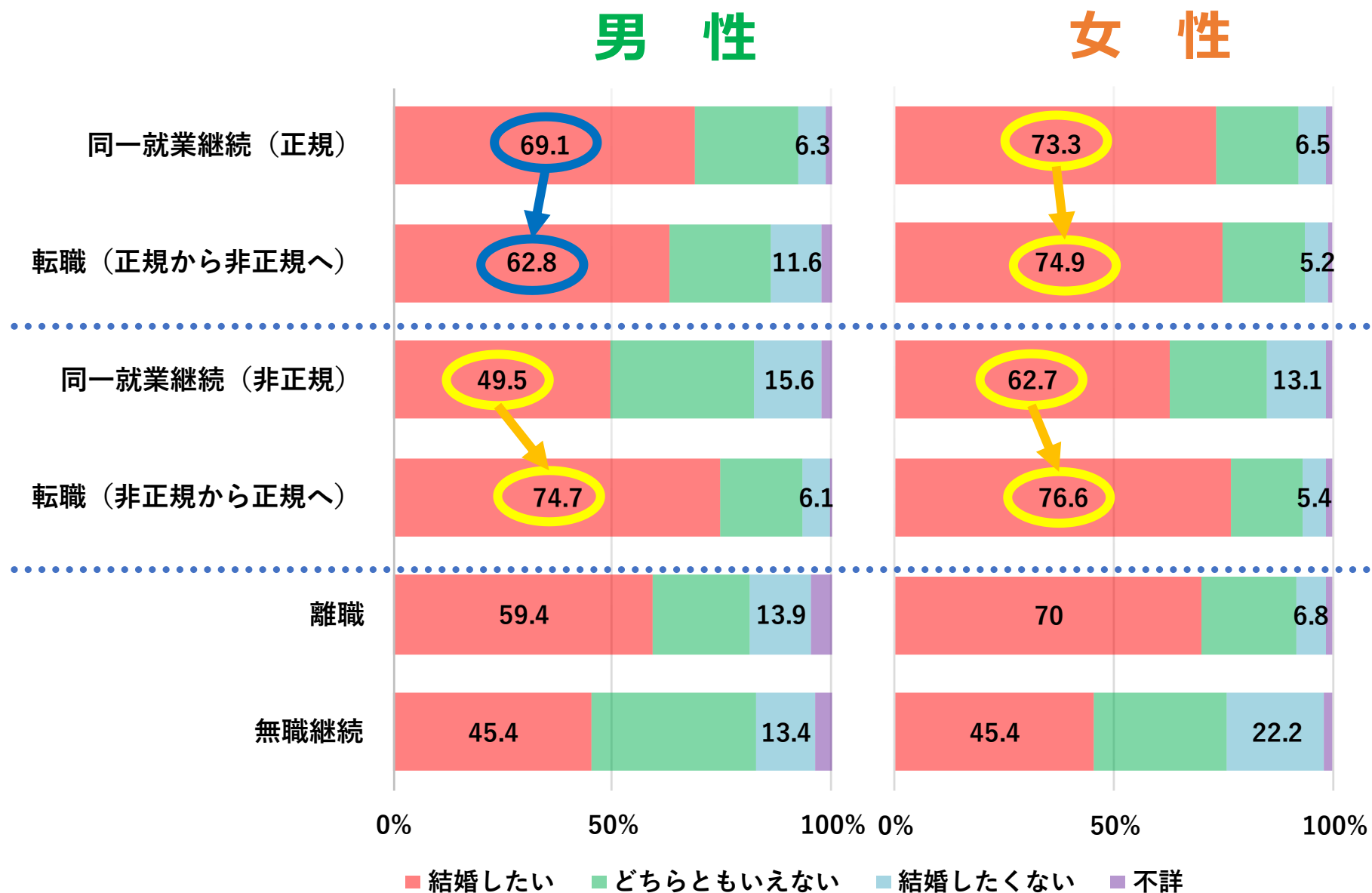
国立社会保障・人口問題研究所(2022)『第16回出生動向基本調査』結果の概要

<https://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou16/JNFS16gaiyo.pdf>

注：対象は「いずれ結婚するつもり」と回答した18～34歳の未婚者。

就業状況の変化と結婚意欲

- 縦断調査
(パネル調査)
 - 同一個人を経時的に調査
- 男性
 - 非正規から正規へ転職すると、結婚意欲が上昇
- 女性
 - 全体的に男性よりも結婚意欲が高い



未婚者が独身でいる理由

18～24歳

男性

若すぎる→

仕事・学業→

必要性なし↓

女性

仕事・学業↓

若すぎる→

必要性なし→

25～34歳

男性

適当な相手なし→

独身の自由→

必要性なし↓

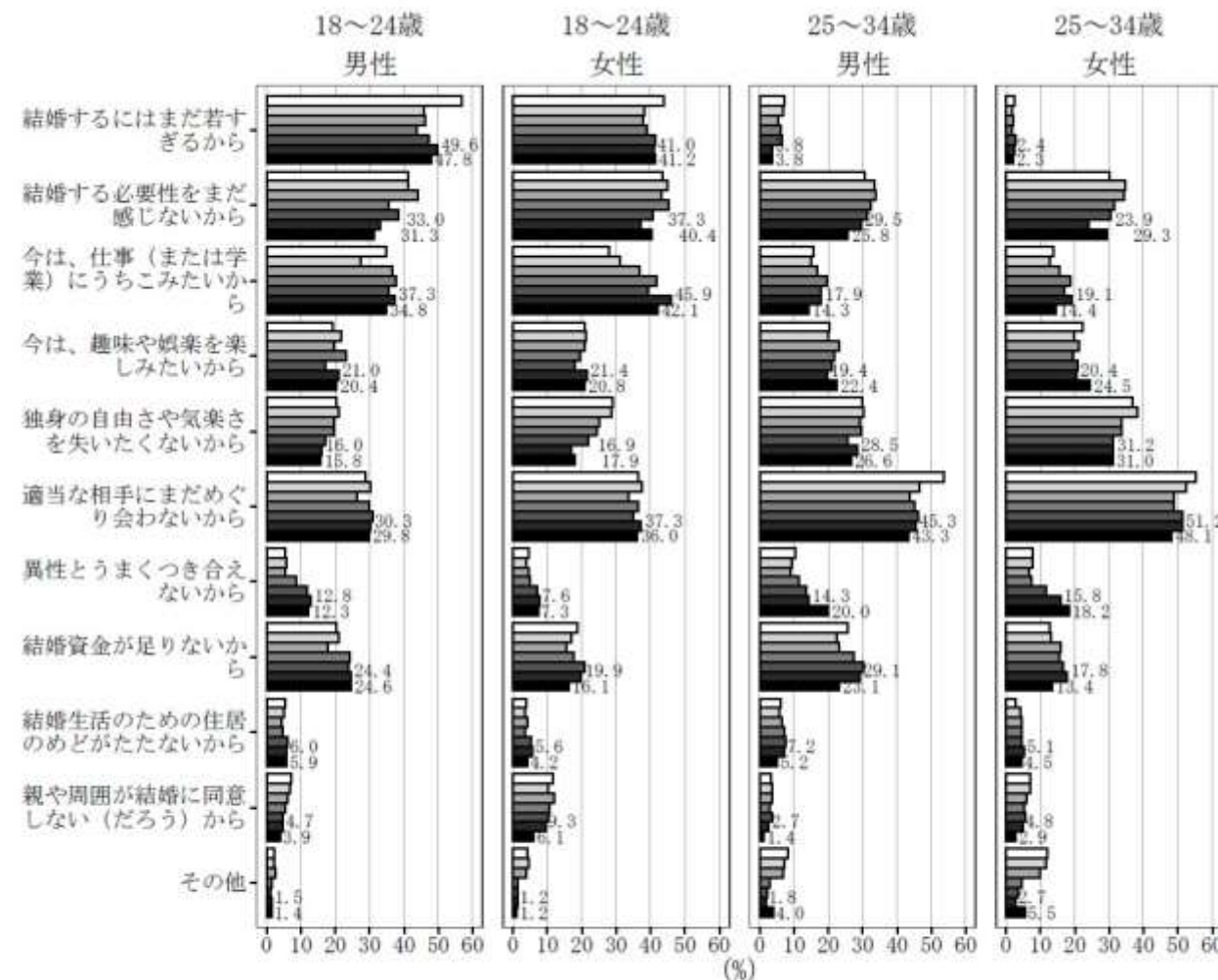
女性

適当な相手なし→

独身の自由→

必要性なし↑

図表 1-7 調査・年齢別にみた、各「独身でいる理由」を選択した未婚者の割合



第10回(1992) 第11回(1997) 第12回(2002) 第13回(2005)
第14回(2010) 第15回(2015) 第16回(2021)

注：対象は18～34歳の未婚者。何%の人が各項目を独身でいる理由（3つまで選択）として挙げているかを示す。

Ⅰ 適当な相手にめぐりあわない理由

- 出会いの機会がない
(42.6%)
- 人を好きになつたり
しない(18.0%)
- 条件に見合う相手が
いない(13.5%)

図表 4-1-6 適当な相手にめぐりあわない具体的内容 (単一回答)

		n=	そもそも身近に、自分と同世代の未婚者が少ない(いない)ため、出会いの機会がほとんどない	同世代の未婚者は周囲にいるが、自分が求める条件に見合う相手がいない	結婚に結びつかないような相手(例:結婚願望のない未婚者や既婚者)ばかり好きになってしまう	好きな人はいるが、相手が自分を好きになつてくれず、交際に発展しない	そもそも人を好きになつたり、結婚相手として意識することが(ほとんど)ない	交際に至っても、仕事の都合等で同居の希望がかなわず、結婚することが考えられない	その他	答えたくない	(%)
TOTAL		1864	42.6	13.5	6.3	11.9	18.0	2.4	1.5	3.9	
男性	合計	1017	44.2	11.8	5.1	14.5	16.6	2.0	1.6	4.2	
	20-29歳	374	38.0	12.6	2.9	13.9	23.5	2.1	2.7	4.3	
	30-39歳	343	50.1	9.0	7.6	14.3	12.8	1.5	0.6	4.1	
	40-49歳	300	45.3	14.0	5.0	15.3	12.3	2.3	1.3	4.3	
女性	合計	847	40.6	15.5	7.8	8.7	19.7	2.8	1.4	3.4	
	20-29歳	376	32.4	18.6	6.6	8.0	26.6	2.7	1.9	3.2	
	30-39歳	280	47.1	10.4	7.1	10.7	17.9	2.9	0.4	3.6	
	40-49歳	191	47.1	16.8	11.0	7.3	8.9	3.1	2.1	3.7	

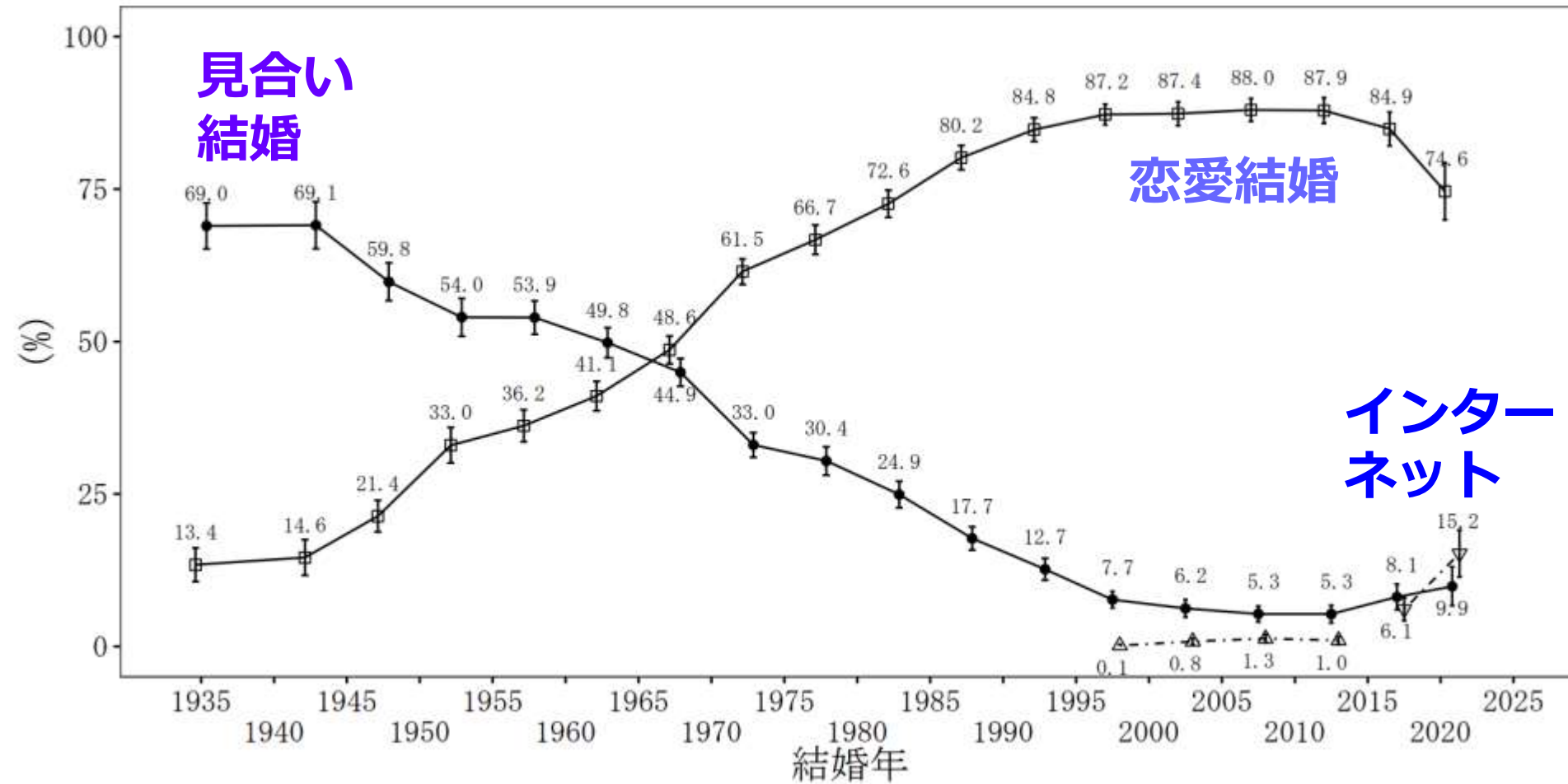
内閣府 (2019) 「少子化社会対策に関する意識調査」調査報告書 (WEB版) .

<https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/h30/zentai-pdf/index.html>

夫婦の出会いの変化：見合い結婚から恋愛結婚へ

- 自由な配偶者選択⇨マッチング機能の低下
- 初婚減少の内、見合い結婚で5割・職縁結婚で4割を説明（岩澤・三田 2005）
- 直近はインターネットを介した出会いが急上昇

図表 5-2 結婚年次別にみた、恋愛結婚・見合い結婚の構成割合



□ 恋愛結婚 ● 見合い結婚 △ メディアを通じて ▽ ネット（インターネット）で

結婚構造の変化

「失われた結婚」

見合い結婚
職縁結婚
妻年齢上方婚
学歴同類婚、
妻結婚直後無職
(夫長男) 夫方同居
生殖・共棲が開始される
結婚
夫正規雇用 (大中企業)
夫正規雇用×妻無職

岩澤美帆 (2013) 「失われた結婚、増大する結婚：初婚タイプ別初婚表を用いた1970年代以降の未婚化と初婚構造の分析」『人口問題研究』第69巻第2号, pp.1-34.

「増大する結婚」

積極的 増加

選択する人が増えた結果、構成割合が上昇している結婚形態

婚前同棲婚、夫非正規雇用、夫長男妻方同居、夫専門職、妻結婚直後非正規雇用、妻結婚直後専門職、夫正規×妻非正規、夫非正規／無職×妻非正規／無職、夫非正規／無職×妻正規

消極的 増加

他の選択が減少したことで構成割合が上昇している結婚形態

婚前妊娠結婚、妻年齢下方婚、妻学歴下方婚、友縁結婚、年齢同類婚

結婚に必要な状況

経済的余裕・異性と知り合う機会・精神的余裕
裕・希望の条件を満たす相手にめぐり会う

経済的余裕

- 男性1位・女性2位

異性との出会い

- 男性2位・女性1位

精神的余裕

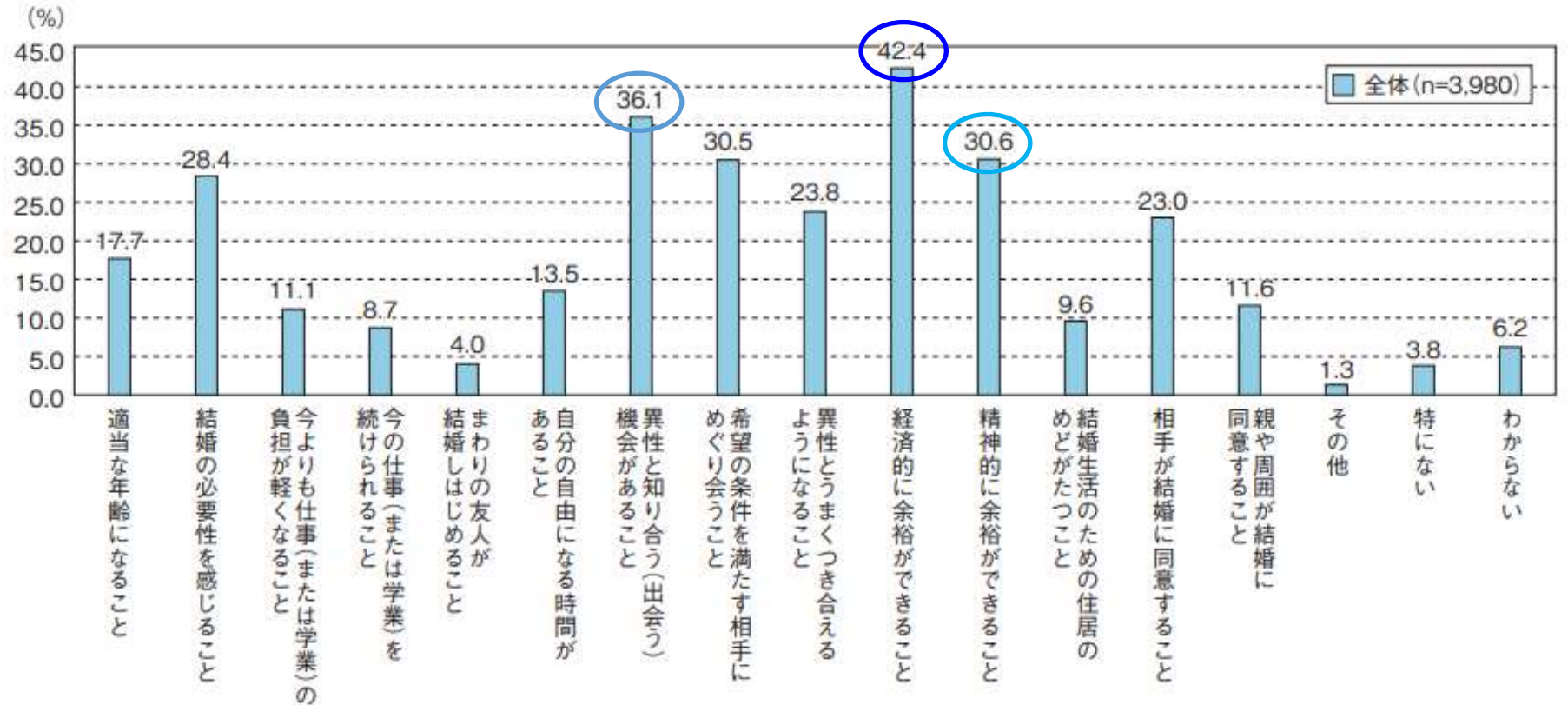
- 男性3位・女性4位

希望の条件

- 男性5位・女性3位

結婚の必要性

- 男性4位・女性5位

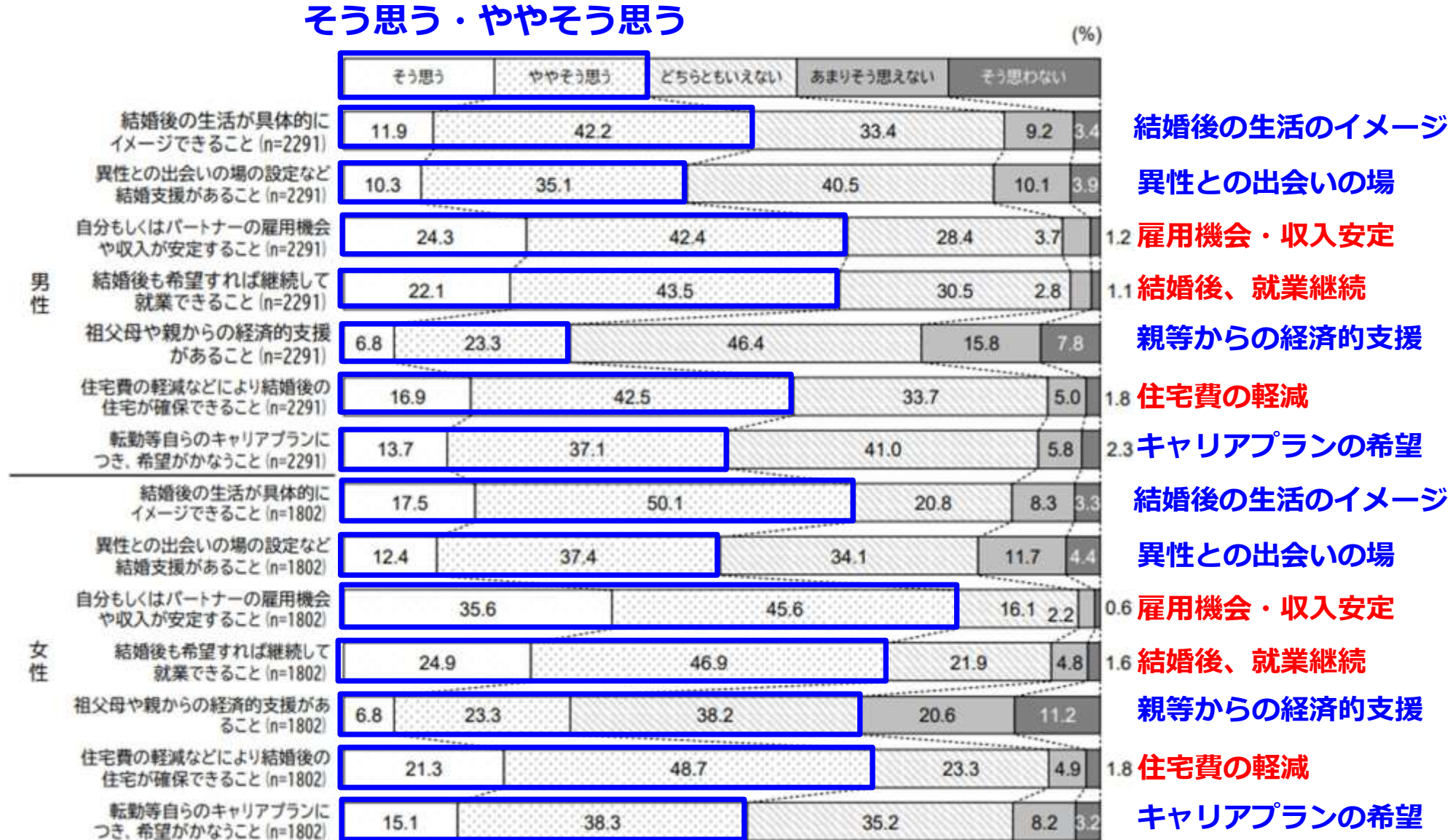


男性 (n=2,241)	18.3	27.0	11.1	8.5	3.2	12.0	33.9	26.1	23.7	46.7	29.2	9.2	18.5	8.6	0.8	4.4	7.1
女性 (n=1,739)	16.9	30.2	11.2	9.1	5.1	15.5	38.9	36.2	24.1	36.8	32.3	10.1	28.8	15.5	1.8	3.0	5.1

結婚の希望がかないやすくなる支援・環境

図表 4-1-12 結婚の希望がかないやすくなる支援・環境 (それぞれ単一回答)

- 雇用安定・収入安定
- 結婚後、就業継続
- 住宅費軽減



内閣府（2019）「少子化社会対策に関する意識調査」調査報告書（WEB版）。

<https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/h30/zentai-pdf/index.html>



若者の交際状況の低迷

未婚者の異性との交際状況

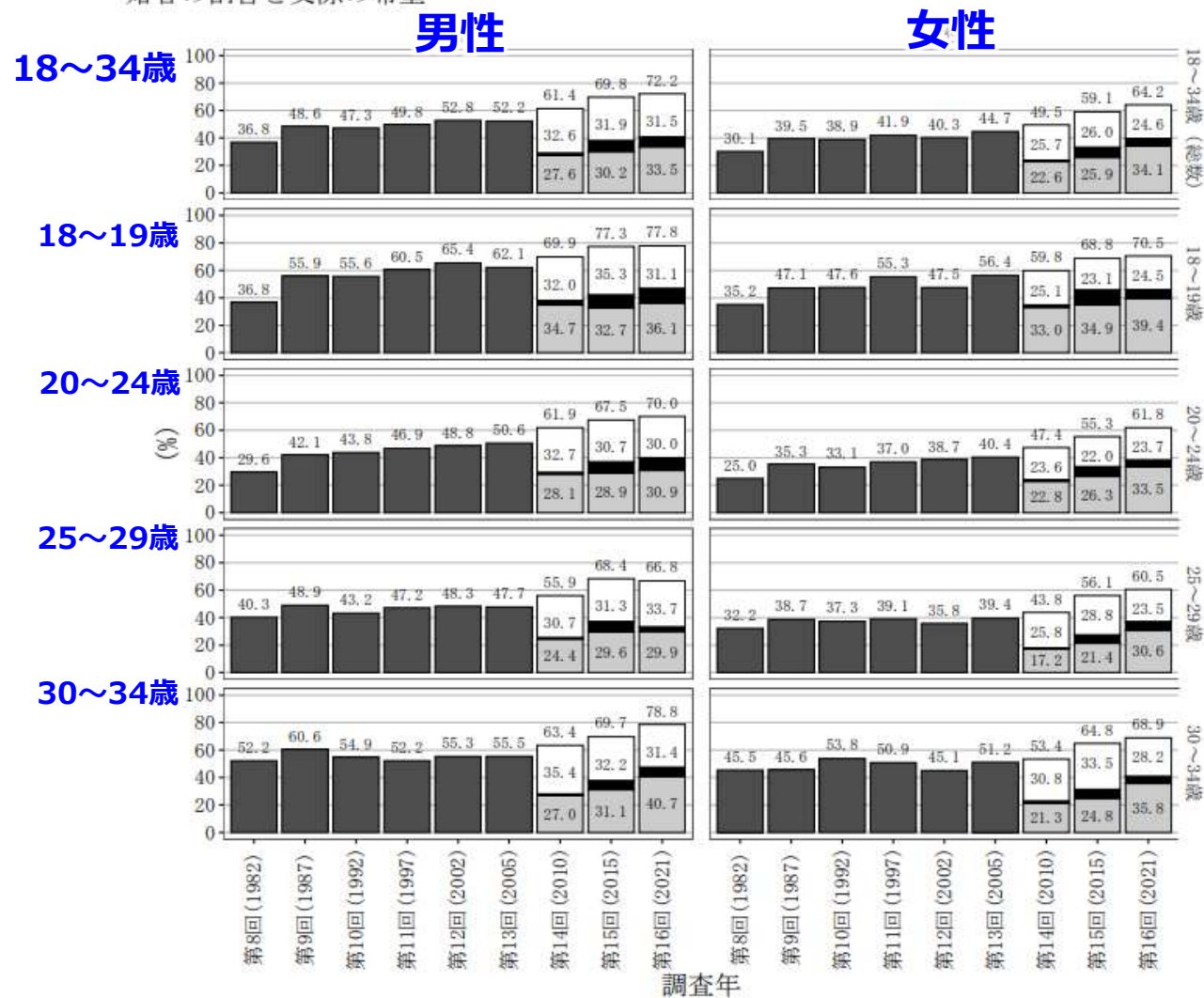
・ 交際相手を持たない未婚者(%)

- ・ 18～34歳
- ・ 男性 72.2% ・ 女性 64.2%
- ・ 25～29歳
- ・ 男性 60.8% ・ 女性 60.8%
- ・ 30～34歳
- ・ 男性 78.8% ・ 女性 68.9%

・ 交際相手なし→交際希望(%)

- ・ 18～34歳
- ・ 男性 31.5% ・ 女性 24.6%
- ・ 25～29歳
- ・ 男性 33.7% ・ 女性 23.5%
- ・ 30～34歳
- ・ 男性 31.4% ・ 女性 28.2%

図表 2-2 調査・年齢別にみた、交際相手（異性の友人／恋人、婚約者）をもたない未婚者の割合と交際の希望



■ 交際相手なし－交際希望の設問なし
 ■ 交際相手なし－交際希望不詳
 □ 交際相手なし－交際を望む
 ■ 交際相手なし－交際を望まない

今、恋人が欲しいと思わない理由

男性

1. 趣味 (55.7%)
2. 恋愛面倒 (52.6%)
3. 仕事勉強 (36.8%)
4. 交際怖い (14.6%)
5. 興味ない (11.7%)

- 対象：「恋人なし」「交際経験なし」で「今、恋人が欲しいと思わない」と回答した人
- 全体の約16%（未婚・既婚を含む20-30代）、20-30代未婚者の約20%

女性

1. 趣味 (56.2%)
2. 恋愛面倒 (55.3%)
3. 仕事勉強 (36.5%)
4. 興味ない (22.2%)
5. 交際怖い (19.0%)

男性

女性

		(%)							
		仕事や勉強に力を入れたい	自分の趣味に力を入れたい	友人と過ごす時間を大切にしたい	過去に恋愛で失敗した	恋愛が面倒	異性に興味がない	異性と交際するのが怖い	その他
20代前半	恋人なし (89)	55.1	64.8	23.2	21.8	45	4.9	12.6	7.7
	交際経験なし(265)	40.6	60.6	14.7	0.7	52	17.1	17.3	8.1
20代後半	恋人なし (108)	47.6	61.4	16.5	2.1	45.5	4.8	3.4	9
	交際経験なし(165)	26.7	57.6	8.3	1.7	54.2	17.5	21.6	10.1
30代前半	恋人なし (86)	47.2	43.3	6.8	1.5	56.7	6.6	2.2	5.3
	交際経験なし(123)	29.8	53	3.5	3.8	53.7	12.4	20.6	24.2
30代後半	恋人なし (87)	24.7	45.5	7.1	7.8	55.4	3.5	6.4	15.6
	交際経験なし(116)	26.6	49.3	5.6	4.2	58.2	12	19.7	15.6
男性合計(1041)		36.8	55.7	11	4.2	52.6	11.7	14.6	11.6
20代前半	恋人なし (91)	51.4	56.4	19.8	17.6	57.8	4.9	17.7	11.3
	交際経験なし(153)	41.2	67.1	24.2	1	54.7	27.2	31.1	6.5
20代後半	恋人なし (79)	48.6	59.9	16.2	8.4	64.1	14.1	7.7	19.7
	交際経験なし(165)	25.3	59.5	16	1.1	55.3	32	24.7	6.9
30代前半	恋人なし (86)	29.7	35.1	14.4	5.4	68.5	16.2	9	9
	交際経験なし(123)	26.1	54.8	7.1	2.7	62	40	18.6	9.9
30代後半	恋人なし (87)	19.6	50.7	10.6	6.7	68.9	17	3.2	20.5
	交際経験なし(116)	20.4	49.8	13.7	1.7	60.9	39.3	26	9.9
女性合計(591)		36.1	57	17.2	5.7	60.1	22.2	19	11.2
合計(1632)		36.5	56.2	13.2	4.8	55.3	15.5	16.2	11.5

未婚者が現在の交際相手と出会ったきっかけ

未婚者の出会い

男性

- 「学校」(30.1%)↑
- 「友人等」(18.0%)↓
- 「職場・仕事」(14.5%)↓

男性

第8回(1982)
第9回(1987)
第10回(1992)
第11回(1997)
第12回(2002)
第13回(2005)
第14回(2010)
第15回(2015)
第16回(2021)

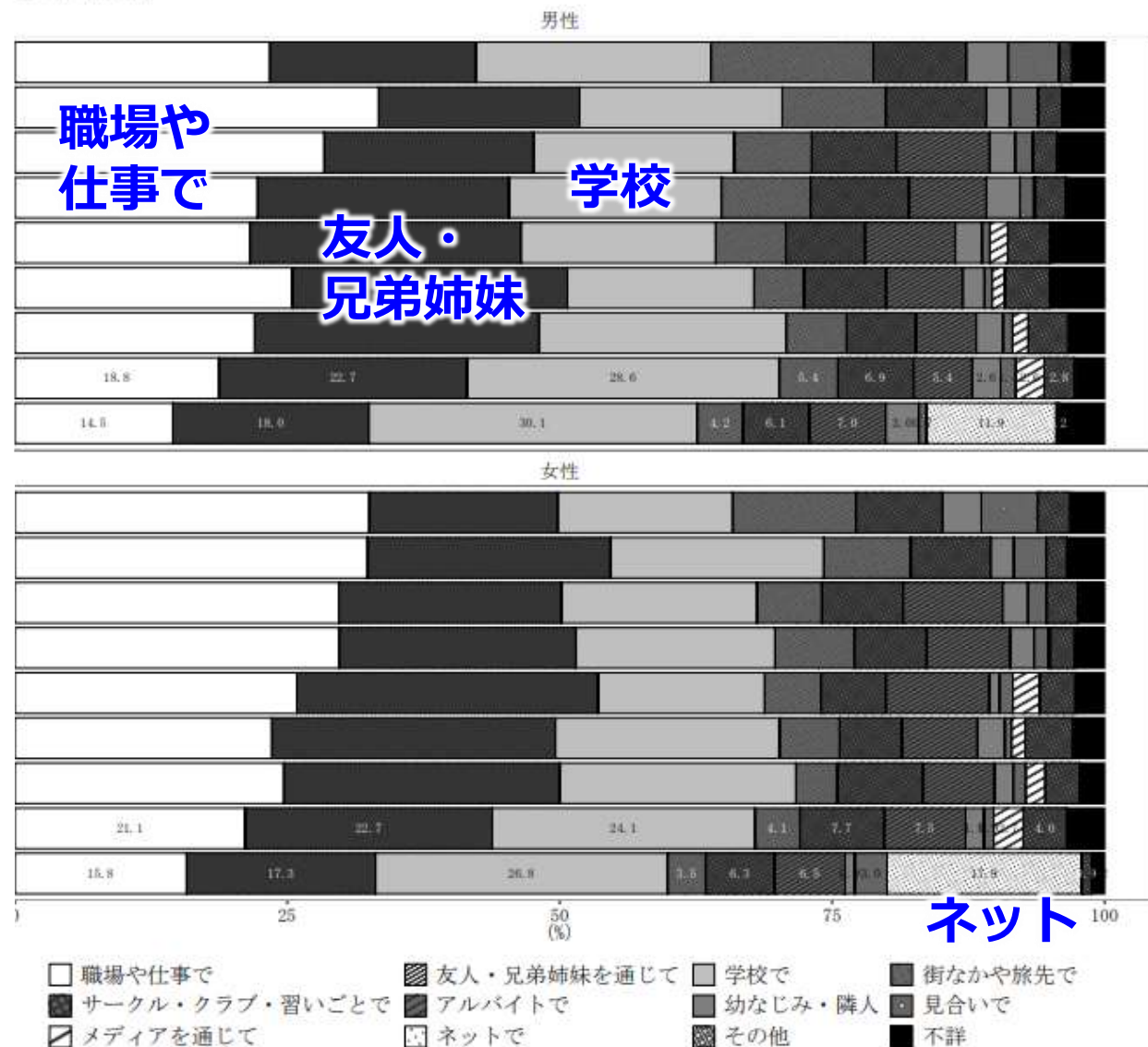
女性

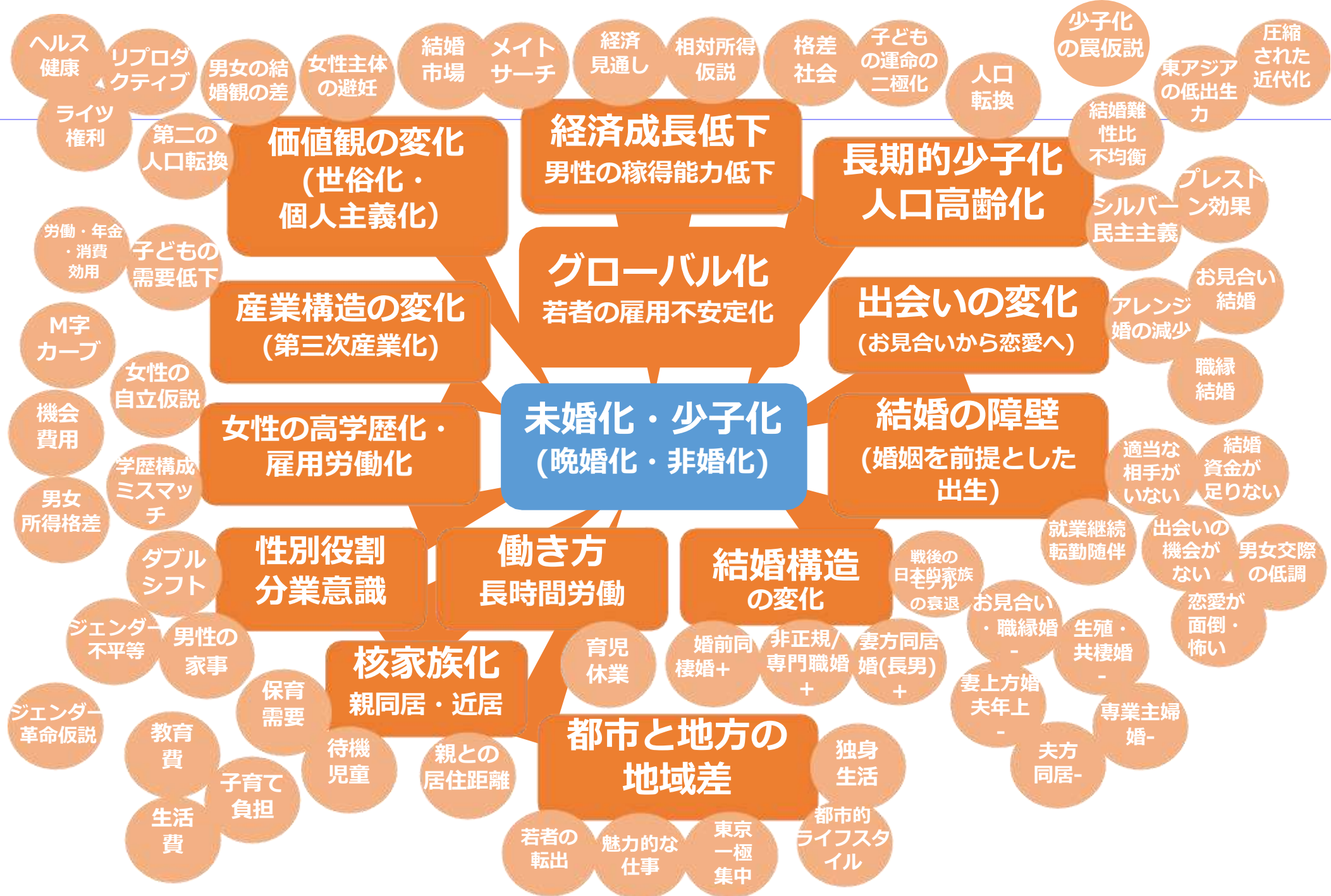
- 「学校」(26.8%)↑
- 「友人等」(17.3%)↓
- 「職場・仕事」(15.8%)↓

女性

第8回(1982)
第9回(1987)
第10回(1992)
第11回(1997)
第12回(2002)
第13回(2005)
第14回(2010)
第15回(2015)
第16回(2021)

図表 2-4 調査別にみた、異性の交際相手と知り合ったきっかけの構成割合（恋人または婚約者がいる未婚者）





まとめ

- 少子化の主要因は未婚化・晩婚化
- 未婚化・晩婚化には様々な要因が影響
- 経済的要因
 - 正規・非正規、世界的な経済状況、女性の経済的自立など
- パートナーの有無
 - 出会いの機会の減少、恋愛観・結婚観の変化など
- 結婚の必然性
 - 独身の自由、移動・職業選択の自由度の拡大など
- 未婚者で多いのは、経済基盤はあるが相手がいない、結婚意欲はある層
 - 出会いの機会がない（お見合いや職場での出会いが低下・恋愛市場からの撤退）
 - 一方で、近年はマッチングアプリなどによる交際が増加（結婚増加には必ずしもつながっていない可能性）
- 所得向上に対する支援が、これらの要因にどのような影響を及ぼすのかについてのモニタリングが必要
 - 経済基盤がない（非正規）層に対する影響（非正規における副業・兼業とは？）
 - 上記のマス層に対する影響（所得が増加すれば、結婚が進むか？出会いの問題）
 - 女性に対する影響（所得と結婚の弾力性が少ない・所得の増加が男性と同じであれば、ミスマッチは解消されない）